手紙

慶応三年二月十四日　河田左久馬あて

坂本龍馬

青空文庫

河田佐熊先生　龍拝

御直破

再拝

其後ハ御無音申上候。御別後、老兄の事を京の方に申遣し候よふ存候うち、別に愚存も相生じ、先、其まゝニ仕候。何卒、今一度御面会仕候時ハ、よほどおもしろき事、御耳に入候と相楽ミ申候。其儀ハ彼の先年御同様、北門の方へ手初致し候事お、又、思ひ出たり。

此度ハ既に北行の船も借受申候。其期根ハ三月中旬より四月朔日にハ多分、出帆仕たしと心積致し申し候。

上許を相初候時ハ、必や老兄が留守でハこまり候事故、私も薩の方へハ申不遣在之候。何卒、其御心積りにて何となく三月初旬までのうちそろ〳〵と、関まで御出かけ被成候ずや。小弟も二月十日ニ長崎より下の関まで帰着仕候事ニ御座候。

何レ拝顔の時、萬々

三月十四日　稽首〳〵

龍馬

河田先生

御案下

追白　もし下の関ニ御出浮被成候得バ、まあ今の内ニハ唯、何の事も他にハ御咄しなく、そろ〳〵と御出かけ可被成奉存候。当時、其御地ニ御留りニて、つがふよろしけれバ別に御出浮被成ずてもよろしく、小弟可後便申上候時を御まち奉願候。

又、近日中御出浮被成候得バ、何か上許のよし御相談申上候。何レ後期ニ。

青空文庫情報

底本：「龍馬の手紙」宮地佐一郎、講談社学術文庫、講談社
2003（平成15）年12月10日第1刷発行
2008（平成20）年9月19日第7刷発行
※底本本文の末尾に、（維新史余稿）（東京　佐々木家蔵）とあります。
※底本手紙の写真のキャプションに、（東京　佐々木家蔵）とあります。
※丸括弧付きの語句は、底本編集時に付け加えられたものです。
※直筆の手紙の折り返しに合わせた改行は、省いて入力しました。
入力：Yanajin33
校正：Hanren
2010年7月28日作成
2011年6月17日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

手紙

慶応三年二月十四日　河田左久馬あて

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　坂本龍馬
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/